

令和 2 年度森林・林業白書の作成方針（案）

1. 白書の構成

(1) 「令和 2 年度森林及び林業の動向」

(ア) 特集・トピックス

特集として、特定のテーマについて詳細な分析等を行う。

トピックスとして、令和 2 年度における森林・林業に関する特徴的な動きを紹介・解説する。

(イ) 通常章

第 I 章以降は、「森林の整備・保全」、「林業と山村（中山間地域）」、「木材需給・利用と木材産業」、「国有林野の管理経営」、「東日本大震災からの復興」の章立てとし、森林・林業全般について現状・課題の分析等を行う。

(2) 「令和 2 年度に講じた森林及び林業施策」、「令和 3 年度に講じようとする森林及び林業施策」

現行の「森林・林業基本計画」（平成 28 年 5 月閣議決定）を踏まえた項目立てとする。

2. 特集のテーマ

我が国の人工林の半数以上が50年生以上と本格的な主伐期を迎え、森林の有する多面的な機能（公益的機能及び木材等生産機能）のより一層の発揮が期待されており、それぞれの地域の自然条件等に応じた主伐・再造林、長伐期化、針広混交林化などの森林整備を通じ、多様で健全な森林に誘導していく必要がある。

このような森林整備を担う林業経営体に対しては、森林経営管理制度の創設、多様な事業連携を可能とする森林組合法の改正などにより、創意と工夫を発揮しながら経営展開ができる制度的な枠組みも整備されてきたところである。

これを受けて、「令和2年度森林・林業白書」の特集のテーマを「森林を持続的に守る林業経営（仮）」とし、森林の現状と多様な森林への誘導の考え方を示した後、森林の循環利用を前提とした、林業経営体による低コスト化の取組や販売戦略について整理する。また、製材工場・原木市場等による再造林の取組や林業イノベーションの技術等についても紹介し、今後の林業経営の可能性を提示する。

3. 今後の予定

今回を含め計3回の施策部会で検討を重ねていただき、林政審議会での諮問・答申を経て、来年5～6月の閣議決定・公表を目指す。（別添）

（以上）

(別添)

令和2年度森林・林業白書のスケジュール（案）

本年9月18日 第1回施策部会（書面開催）
・作成方針（案）の検討

11月 第2回施策部会
・令和2年度森林及び林業の動向
（構成（案）、主要記述事項（案））

来年2月 第3回施策部会
・令和2年度森林及び林業の動向（原案）
・令和3年度森林及び林業施策（原案）

4月 林政審議会
・令和2年度森林及び林業の動向（案）
・令和3年度森林及び林業施策（案）
（諮問・答申）

5月下旬～6月上旬 閣議決定・国会提出・公表

(参考 1)

◎森林・林業基本法（昭和三十九年法律第百六十一号）（抄）

（森林及び林業の動向に関する年次報告等）

第十条 政府は、毎年、国会に、森林及び林業の動向並びに政府が森林及び林業に関して講じた施策に関する報告をしなければならない。

2 政府は、毎年、前項の報告に係る森林及び林業の動向を考慮して講じようとする施策を明らかにした文書を作成し、これを国会に提出しなければならない。

3 政府は、前項の講じようとする施策を明らかにした文書を作成するには、林政審議会の意見を聴かなければならない。

これまでの森林・林業白書（林業白書）の特集について

年度	テーマ名
昭和 47年度	国民生活と森林・林業、国有林野事業の課題
48年度	森林資源をめぐる課題
49年度	林業の発展と山村地域の課題
50年度	林業の発展と林家の課題
51年度	林業の地域的発展をめぐる課題
52年度	木材需給と林業発展の課題
53年度	林業の発展と森林資源の整備をめぐる課題
54年度	地域林業の担い手育成をめぐる課題
55年度	木材需給構造の変化と流通加工部門の対応
56年度	林業経営の現状と林業発展の課題
57年度	森林管理の現状と緑資源確保の課題
58年度	林政の推進と国有林野
59年度	国産材時代への挑戦
60年度	森林資源整備の新たな展開を目指して
61年度	試練にたつ日本林業とその活力回復に向けて
62年度	新たな林業技術体系の構築
63年度	豊かな国民生活のための森林づくり
平成 元年度	国民のニーズにこたえる木材の供給と国内森林資源の有効活用
2年度	森林管理とその担い手のあり方
3年度	森林の管理と山村の活性化
4年度	地球環境を守る森林・林業
5年度	森林と木の時代を目指して
6年度	森林文化の新たな展開を目指して
7年度	林業、木材産業の活性化に向けて
8年度	木材の消費・流通構造と国産材供給の課題
9年度	国有林野事業の抜本的改革
10年度	木材の利用推進と森林の適切な整備
11年度	世紀を超えた森林整備の推進
12年度	これまでの林政の推移と新たな基本政策の方向
13年度	森林と国民との新たな関係の創造に向けて
14年度	世界の森林の動向と我が国の森林整備の方向
15年度	新たな「木の時代」を目指して
16年度	次世代へと森林を活かし続けるために
17年度	国民全体で支える森林
18年度	健全な森林を育てる力強い林業・木材産業を目指して
19年度	林業の新たな挑戦
20年度	低炭素社会を創る森林
21年度	林業再生に向けた生産性向上の取組
22年度	木材の需要拡大ー新たな「木の文化」を目指して
23年度	東日本大震災からの復旧・復興に向けて
24年度	森林・林業の再生と国有林
25年度	森林の多面的機能と我が国の森林整備
26年度	森林資源の循環利用を担う木材産業
27年度	国産材の安定供給体制の構築に向けて
28年度	成長産業化に向けた新たな技術の導入
29年度	新たな森林管理システムの構築
30年度	今後の森林の経営管理を支える人材 ～森林・林業・木材産業にイノベーションをもたらす！～
令和 元年度	持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する森林・林業・木材産業

注：特集は昭和47年度から掲載

森林・林業白書の特集の内容（過去10年）

年度	テーマ名・内容
平成22年度	<p>【木材】木材の需要拡大—新たな「木の文化」を目指して <u>木材需要拡大の背景とこれまでの取組</u>を整理。<u>公共建築物の木造化、木質バイオマスのエネルギー利用、木材輸出</u>の3点に焦点を当てて、最新の動向について記述。</p>
23年度	<p>【震災復興】東日本大震災からの復旧・復興に向けて <u>東日本大震災による森林・林業・木材産業の被害状況・復旧状況</u>を紹介。<u>海岸防災林の復旧・再生、木材の活用、エネルギー安定供給に向けた木質バイオマスの活用、原子力災害からの復興</u>について記述。</p>
24年度	<p>【森林・林業】森林・林業の再生と国有林 <u>森林・林業の再生</u>に向けて進めている取組を整理。<u>国有林野事業の今後の展開方向</u>について紹介。</p>
25年度	<p>【森林】森林の多面的機能と我が国の森林整備 <u>森林の多面的機能の発揮に果たす森林整備の役割</u>について記述。<u>我が国の森林整備を巡る歴史</u>を振り返り、<u>森林整備推進のために関係者が果たすべき役割</u>など今後の課題を整理。</p>
26年度	<p>【木材産業】森林資源の循環利用を担う木材産業 <u>木材産業の役割と概要</u>等について記述。<u>我が国の戦後の木材需給の変遷と木材産業の対応</u>を振り返り、<u>木材産業をめぐる最近の動向と将来に向けて取り組むべき課題</u>を整理。</p>
27年度	<p>【林業】国産材の安定供給体制の構築に向けて <u>人工林資源の充実</u>や<u>国産材需給の現状</u>について分析し、<u>国産材の安定供給体制の構築に向けた取組の現状や今後の課題</u>について、「<u>原木の供給力の増大</u>」と「<u>木材等の需給情報の共有と原木供給のとりまとめ</u>」に分けて整理。</p>
28年度	<p>【技術導入】成長産業化に向けた新たな技術の導入 <u>林業の成長産業化を図る上で基礎となる新たな技術</u>について、<u>林業の生産性向上、情報通信技術（ICT）の活用、木材需要拡大、花粉の発生抑制</u>の4つに分けて、<u>導入状況やその成果と課題等</u>を整理。</p>
29年度	<p>【制度】新たな森林管理システムの構築 <u>森林の集積・集約化を進める「新たな森林管理システム」の構築の方向性</u>について、<u>欧州の代表的な林業国であるオーストリアとの比較</u>により、<u>我が国林業の構造的な課題</u>を明らかにしながら記述。</p>
30年度	<p>【人材】今後の森林の経営管理を支える人材～森林・林業・木材産業にイノベーションをもたらす！～ <u>林業の成長産業化と森林の適切な経営管理に不可欠である人材に着目</u>して、<u>林業経営体や林業従事者の動向や課題</u>を整理しつつ、<u>森林・林業・木材産業におけるイノベーションの必要性</u>や<u>個々のイノベーション事例</u>について記述。</p>
令和元年度	<p>【SDGs】持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する森林・林業・木材産業 <u>我が国におけるSDGsと森林・林業・木材産業との関係性</u>を整理するとともに、<u>企業を始めとした様々な主体の森林との多様な関わりを、多くの事例</u>を用い紹介。また、<u>SDGsの達成に向けた関係者の役割</u>を記述。</p>